

福知山市部活動改革検討会議 第3回会議 議事録

会議日時: 令和6年10月18日(金)午後3時00分～午後5時

会議場所: 総合福祉会館 22・23号室

参加者: 別紙のとおり

議題:

1. 開会あいさつ
2. 福知山市における地域移行に係る実証事業の実施について
 - (1) 令和6年度実施種目の状況について
 - (2) 令和7年度以降の実施種目ヒアリング状況について
3. 基本計画について
 - (1) 基本理念
 - (2) 基本方針
4. 基本計画概要版について
5. 実施・運営体制について
6. 移行スケジュールについて
7. その他
8. 閉会あいさつ

議事内容

1. 開会あいさつ(長積委員長)
 - ・ 地域移行の先進事例として岐阜県飛騨市の学園構想を紹介し、行政と民間企業の連携による地域活性化の成功事例を示し、福知山市においても、国の指針に従うだけでなく、福知山市総合計画や教育基本計画に基づき、地域の実情に合わせた部活動の地域移行のあり方を検討していくべきだと強調された。
 - ・ 福知山市が部活動の地域移行モデルとなることに期待を寄せ、活発な意見交換を呼びかけられた。
2. 福知山市における地域移行に係る実証事業の実施について
 - (1) 令和6年度実施種目の状況について

- **サッカー:** 月 2 回の合同練習会を実施。高校との試合形式の練習試合も実施。7 月以降は 3 年生が引退し、13 名で活動。スクールバスの運行がなくなったため、参加者の移動手段が課題となっている。
- **ソフトボール:** 3 年生引退後、11 名で活動。毎週合同練習を実施し、他地域のソフトボールチームや高校との練習試合も行っている。小学生との合同練習会も実施し、将来的な部活動への参加を促している。
- **合唱:** 希望者 0 名で、活動が開始できていない。合唱連盟と協議を行い、連盟側で啓発活動を進めることになった。
- **バスケットボール:** 3 回実施。参加人数は変動があり、テスト期間や学校行事と重なる場合は少ない。特徴として、福知山高校附属中学校と合同チームを組んで大会に参加している学校の生徒は、実証事業に参加できないという課題が出ている。
- **バレーボール男子:** いずれの学校にもバレーボール部はないが、4 校から申し込みがあり、需要はある。
- **剣道:** 南陵中学校と日新中学校にしか部活動がないが、六人部からも申し込みがある。
- **スクールバス運行に関する事務局からの補足説明:**
 スクールバスの運行が困難になっている。委託会社の人手不足が原因で、継続的な運行は難しいと回答を得ている。
 民間バス会社にもヒアリングを行ったが、こちらも人手不足や採算性の問題から、継続的な運行は難しいという回答だった。イベント的な依頼であれば対応可能とのこと。

(2) 令和 7 年度以降の実施種目ヒアリング状況について

- **柔道:** 舞鶴市では柔道部の地域移行が成功しており、福知山市でも同様の取り組みを検討している。指導者不足が課題。
- **ソフトテニス:** すでに熱心な指導者によるクラブチームがあり、40 名ほどのスクール生がいる。地域移行への期待は高い。指導者不足が課題。
- **陸上:** 陸上競技協会主催で月 2 回の合同練習会を実施しており、地域移行への活用が期待される。指導者不足が課題。
- **卓球:** 以前はクラブチームがあったが、指導者の高齢化により閉鎖。中学校の教員が中心となり、新しいクラブチームを立ち上げ、週 2 回活動している。卓球人口が多く、地域移行を進める場合、場所と台数の確保が課題。
- **野球:** すでに 3 つのクラブチームが活動しており、土日については地域移行の条件が整っている。顧問の先生からは、学校単位での活動の継続を希望する意見が出ている。

- ・ バレーボール女子: 中体連の大会にクラブチームが参加できるようになったことが、中学校のバレーボール部に大きな影響を与えている。中学校の顧問とクラブチームの指導者の関係が悪化していることが課題。

3. 基本計画について

(1) 基本理念

事務局案:「あらたにできる、ながくできる、いろいろできる」を基本理念とし、「できるふくちやま」を目指す。

委員からの意見:

- ・ 「できるふくちやま」はキャッチフレーズとして良い。
- ・ 子どもたちに伝わりやすい表現にすべき。
- ・ スポーツ推進計画とは異なる、子どもたちに刺さるメッセージが欲しい。
- ・ 生涯スポーツの位置付けについて、競技力向上を目的とするのではなく、誰もが楽しめる環境作りの視点で表現すべき。
- ・ 新しいニーズに対応した活動や、既存の部活動以外の活動も、地域と連携して支援していく仕組み作りが必要。
- ・ 対象を中学生に限定せず、生涯スポーツの視点も必要。
- ・ 1 理念の文章中、「そんな中で、…子どもたちがやりたい部活動ができる」→文化・スポーツ活動ができるのほうがよい。
- ・ 新しいこともできるし、いろんなことができるし、それが長くできるよということで、「ながくできる」と「いろいろできる」の順番を変えたほうがよい。
→「あらたにできる いろいろできる ながくできる」に賛成意見多数。

(2) 基本方針

事務局案:

生涯スポーツ・文化活動を「できる」

新しい活動が「できる」

将来にわたって継続して「できる」

いろいろなかたちで「できる」

みんなと「できる」

- ・ 委員長から、基本理念(案)、基本方針(案)に対する意見募集を呼びかけ、次回以降も継続協議することとなった。

4. 基本計画概要版について、5. 実施・運営体制について、6. 移行スケジュールについて

- ・ 片野コーディネーターから、神戸市と姫路市の地域移行の事例を参考に、福知山市における今後の進め方について説明。
- ・ 令和9年度に移行を目指す場合のスケジュール案が提示された。

- ・ 平日と休日で活動の運営を分けた場合の体制案が提示された。
- ・ 平日の部活動を継続する場合の課題が提示された。

7. その他

委員からの意見：

- ・ 令和 9 年度に移行した場合の具体的なイメージがわからない。
- ・ 学校現場への情報提供が不足しているため、保護者からの質問に答えられない。
- ・ 地域移行を進めるには、教員の働き方改革も同時に進める必要がある。
- ・ 地域移行によって、部活動に入らない生徒の受け皿も考える必要がある。
- ・ 部活動指導員や外部指導者の確保、謝金等の予算確保が課題。
- ・ 生徒の移動手段の確保、特にスクールバスの運行が課題。
- ・ 地域のスポーツ団体との連携強化が必要。
- ・ 大会運営を地域移行後も継続できる体制作りが必要。

8. 閉会あいさつ(伊豆副委員長)

- ・ 部活動は教育的に重要なものであり、地域移行によって子どもたちの文化・スポーツ活動を保障していくことが重要である。
- ・ 誰のため、何のために地域移行を進めるのかを明確にする必要がある。
- ・ すべての子どもたちに選択の余地と、やりたいことができる場と機会を提供することが重要である。
- ・ 財源、受益者負担、セーフティネットなど、課題は多いが、議論を重ねて解決していく必要がある。
- ・ 検討会議での議論を通して、地域移行の具体的な形を作り上げていくことが重要である。

事務連絡

- ・ 第 4 回検討会議は 12 月を予定。詳細は後日連絡。

今後の課題:

- ・ 地域移行の具体的な目標とする姿を描く。
- ・ 学校現場、保護者、地域への情報提供と意見交換を進める。
- ・ 教員の働き方改革と地域移行を両立させる具体的な方策を検討する。
- ・ 部活動に入らない生徒の受け皿となる活動の検討。
- ・ 指導者、活動場所、財源などの具体的な確保策を検討する。
- ・ 大会運営体制、生徒の移動手段確保など、地域移行後の具体的な課題を解決する方策を検討する。